

新型コロナウイルス感染流行前後のアルコール摂取頻度と摂取量の変化 (ZRF study 第28報)



長濱さつ絵^{1,2}、堀愛³、道川武紘²、朝倉敬子²、西脇祐司²

¹全日本労働福祉協会、²東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野、³筑波大学医学医療系国際社会医学研究室

職域健康診断の問診票におけるアルコール摂取頻度および摂取量は、新型コロナウイルス感染拡大前後でほとんど変化がなかった

【目的】 新型コロナウイルス感染症流行によるアルコール摂取習慣の悪化の可能性にWHOや日本医師会から注意喚起が出る一方、世界では飲酒量が減少したとする報告もある。しかしながら、流行前後でアルコール摂取習慣の変化を検討した報告は少ない。今回、流行前後のアルコール摂取頻度と量の変化について報告する。

【方法】 対象者：2018年度に全日本労働福祉協会健康診断を受けた20歳以上の受診者で、19年度、20年度も受診をしている人（男性218,692人、女性112,508人）

アルコール摂取習慣の評価：健康診断問診票を用いた
 ・摂取頻度：毎日飲む、時々飲む、ほとんど飲まない・飲めない
 ・一回あたりの摂取量：1合未満、1～2合未満、2～3合未満、3合以上
 ・摂取量については毎日飲む、時々飲む人を解析 *問診票が毎日、時々の人のみ回答する様式のため

新型コロナ感染症流行前の変化（2018年度から19年度の変化）
 ・摂取頻度の変化：2018年度の摂取頻度毎に、19年度の摂取頻度の割合を算出
 ・摂取量の変化：2018年度の頻度別に、2018年度の摂取量毎に19年度の摂取量の割合を算出

新型コロナ感染症流行後の変化（2019年度から20年度の変化）
 ・摂取頻度の変化：2019年度の摂取頻度毎に、20年度の摂取頻度の割合を算出
 ・摂取量の変化：2019年度の頻度別に、2019年度の摂取量毎に20年度の摂取量の割合を算出

表1. 各年度の飲酒頻度の回答者割合 (%)

	男性			女性		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020
毎日飲む	32.3	32.4	33.1	12.2	12.2	12.6
時々	35.2	34.8	32.8	33.5	33.2	30.7
ほとんど飲まない	32.5	32.8	34.1	54.3	54.6	56.6

表2. 各年度のアルコール摂取量の回答者割合 (%)

	男性			女性		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020
1合未満	33.6	33.2	34.9	56.6	56.1	58.8
1～2合未満	43.5	43.8	43.8	33.5	33.9	32.8
2～3合未満	16.9	17.0	16.2	7.9	8.0	6.7
3合以上	6.0	6.0	5.1	2.0	2.0	1.7

【結果】 2018年受診時の平均年齢±標準偏差は男性44.4±13.0歳、女性45.1±13.1歳だった。

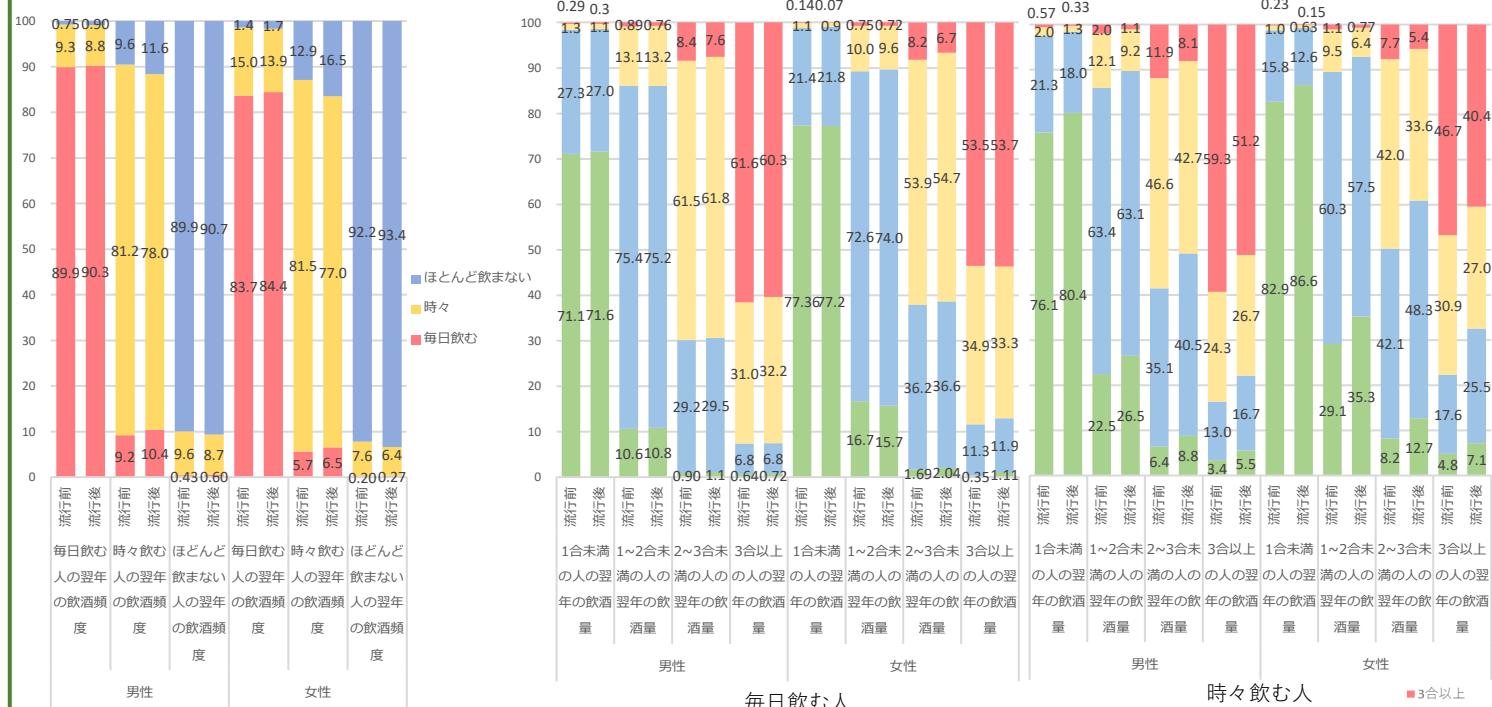


図1. 飲酒頻度の変化

図2. 飲酒量の変化

・毎日飲む人の飲酒頻度は感染流行前後で差がなかった。
 ・時々飲む人は一年後、ほとんど飲まない・飲めないと答えた人が流行後に増え、時々飲むのままの人は減っていた。

・毎日飲む人の摂取量については、感染流行前後で差がなかった。
 ・時々飲む人とほとんど飲まない・飲めない人では、流行後のほうが翌年の摂取量が減っている人が多かった

【考察】 本研究では、コロナ感染症流行後のアルコール摂取習慣の変化は感染症流行前とほとんど変わりがなかった。時々飲むと答えた人では感染流行後に飲酒頻度・摂取量が減っており、外食や飲み会の頻度が減ったことが影響している可能性が考えられた。